

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立洛友中学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(コミュニケーション能力や言語能力の向上) 2. 豊かな心の育成(自尊感情や社会性の育成を目指した活動) 3. 健やかな体の育成(心身の健康を管理する力の向上)

2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日 平成27年8月19日 評価者・組織 運営委員会	評価日 平成27年10月1日 評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員		
1 確かな学力	自分が考えたことや感じたことを表現する力の育成 昼・夜間部「交流の時間」の充実 書く力の育成	各教科で発問を工夫し発表の機会を増す。年3回の学校公開日と授業漢字、美術、人権など学習内容を系統立てて効果的に実施。 漢字学習プリントがファイリに蓄積され、日常生活に生かされている	話す・聞くなどの態度の変容。授業中に発表する機会が増えたか。 漢字学習プリントがファイリに蓄積され、日常生活に生かされている	発表する機会が増加。主体的に発表しているという意見が増加。	⇒ ・発問の工夫により、主体的に発表する姿が増加。発表内容の質的高まりを目指して、教材・発問をさらに工夫改善する。「交流の時間」が系統化されてきた。 ・作文や日記において、心情を表現する力は向上した。語彙数をさらに増やす指導を工夫する。	・本時の目標に迫れるよう質的向上を目指して、教材・発問をさらに工夫改善する。「交流の時間」が系統化されてきた。 ・作文や日記において、心情を表現する力は向上した。語彙数をさらに増やす指導を工夫する。	⇒ ・発表しやすい雰囲気づくりがなされ、発表する人も聞く人も主体的に頑張っている。 ・時には生徒同士の話し合い活動ができるように、先生がファシリテーターの役割を果たしてはどうか。	⇒ ・学校へ来る機会が割にあるので、積極的に授業を見せていただき、気づいたことがあればお伝えします。 ・学校の取組を地域に知らせるなど、できることを今後も支援させていただきます。
2 豊かな心	挨拶の励行 人権の大切さを考える活動の実施 日本の伝統文化を知る体験活動の実施	登下校時に校門で挨拶を実施(特に夜間部の下校時は全教職員で実施) 人権標語入りカレンダーの作成と地域への配布。 外部講師を活用した茶道、陶芸、和装などの取組。	挨拶時の会話・表情から、充実感を得ながら学校生活を送っているか。 人権の大切さを表現できているか。地域に役立っていると感じているか。 日本の伝統文化を理解する機会になったか。	豊かな表情で挨拶ができるようになり、充実した学校生活を送っているか。 様々な教育活動を通じて人権の大切さを考えており、この後制作に茶道、陶芸、和装などの活動を通して、日本文化の理解が進んだ。	⇒ ・夜間部では充実感を率直に表現できるが、昼間部は会話や表情に表れていない。内面に働きかける必要がある。 ・様々な教育活動の場面で人権の大切さを考えている。それを表現する活動に力を入れる。 ・日本の伝統文化を理解する機会になっている。	⇒ ・昼間部生徒が表情豊かに表現できるが、昼間部は会話や表情に表れていない。内面に働きかける必要がある。 ・人権標語入りカレンダーを配布した後、地域の方々から感想文をいただき生徒に配布する。 ・国籍や文化の違いを認め、尊重し合える関係を今後も育む。	⇒ ・日々先生方が校門で働きかけていることが、生徒のみなさんには伝わっていると感じる。 ・昨年度の人権カレンダーがとても良かった。今年の作品も期待している。 ・地域の方々をはじめ外部講師への依頼が功を奏していると感じる。	⇒ ・私たちも生徒のみなさんを見かけたら、積極的に挨拶をしていきます。 ・人権標語入りカレンダーをいただいたら、感謝をこめた感想文を届けたいと思います。 ・茶道指導など、できる限り支援していきます。
3 健やかな体	健康観察の励行 健康相談の実施	毎日、養護教諭と担任が連携して、健康観察の実施。 校医や関係機関と連携した健康相談や保健指導の実施。	心身両面における変化の把握。 持病、食事、就寝などのアンケートを実施。家族からの相談にも対応。	心身両面に課題ある生徒が多いが、早期の発見・対応に繋がっている。 健康相談や保健指導が役立ち、健康管理の意識が高まっている。	⇒ ・健康観察の励行により、早期の発見・対応ができる。・昼夜間部共に心身に課題のある生徒が多いので、今後も健康管理の大切さを指導していく。	⇒ ・全教職員が生徒の心身の健康状態についての情報を共有し、適切にかかわっていく。 ・校医や関係機関と連携を深め、専門的なアドバイスを基づいて指導している。	⇒ ・高齢者の方も学校へ来るのを楽しみにされている。 ・学校への来ることが健康維持に繋がっているようだ。	⇒ ・校医や関係機関との連携において支援できることがあればさせていただきます。
4 独自の取組	日本語教室の充実 情報発信の充実	課内・課外で日本語教室を実施。 ホームページを積極的に更新。	課外の日本語教室に参加する生徒が主体的に取り組んでいるか。 学校ホームページへのアクセス数。	社会生活に必要な日本語を、課外で主体的に学ぶ生徒が増えた。 PTA組織が無く、知名度も低いが、少しずつアクセス数が増えてき	⇒ ・課外の日本語教室で主体的に学ぶ姿が見られ、コミュニケーション能力も向上してきた。さらに、授業中に発表できるように取り組む必要がある。 ・積極的にHPで情報発信しているが、アクセス数は微増。知名度アップのために今後も積極的発信が必要。	⇒ ・各教科で取り組んでいる発問の工夫(発表機会を増す)と関連付けて、日本語教室で発表のスキルを指導する。 ・HPに掲載する写真の角度やサイズに配慮しながら、今後さらに生徒の活動をリアルタイムで発信していく。	⇒ ・日本語を学ぶことで、コミュニケーション能力が高まり、他の教科もよりよく学んでいるようだ。 ⇒ ・HPで発表することは、自尊感情が高まる。 ⇒ ・学校だよりの配布を有り難く思っているが、それよりHPを見る方がリアルタイムだと思った。	⇒ ・昼夜間合同の茶道指導の時に、日本語の指導も合わせて行うように配慮していきます。 ⇒ ・学校のHPを見て、生徒のみなさんの様子を知つてもらえるように地域の方々にPRします。